

2024 Summer



国土交通省 四国地方整備局
小松島港湾・空港整備事務所

Vol.61

あなめなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

新時代を切り拓く 徳島小松島港

赤石地区 国際物流ターミナル整備事業 新規事業化
～更なる国際競争力強化を目指す 新たなステージへ～

TOPICS

＜特集＞
令和6年度
事業概要を
ご紹介します

令和6年4月1日付けで事務所長として着任しました高尾俊輝と申します。よろしくお願いします。

当事務所には縁があり、今回が4回目の勤務となります。

まずは、念願であった「赤石地区国際物流ターミナル整備事業」が令和6年度に事業化され、新たな事業がスタートします。今後増大が見込まれるコンテナ貨物需要や2024年問題に起因するモーダルシフト需要への対応を図り、更なる地域の国際競争力強化に向け、早期の完成を目指し整備を推進して参ります。また、事業化にあたり、これまでご支援・ご協力いただきました企業・関係者の皆様に改めて誌面をお借りしてお礼を申し上げます。

また、継続事業では港湾施設の国土強靱化対策として南海トラフ地震・津波対策の推進や、徳島飛行場での滑走路端安全区域(RESA)の現地着手に向けた現地調査の他、海の環境保全を目的とした海洋環境整備事業を継続するとともに、クルーズ振興やみなとまちづくり等の賑わい創出に向けた取り組みについても積極的に支援して参りたいと考えております。

引き続き、地域の皆様の安全・安心の確保を目指し、地域に根ざした組織として皆様のご意見をしっかりと聞きながら期待に応えられるよう微力ではございますが、取り組んで参りますので、今後ともご指導とお力添えをよろしくお願いいたします。

小松島港湾・空港整備事務所長 高尾 俊輝



minato みなとインフォメーション
Information

小松島港湾・空港整備事務所 令和6年度事業概要

港湾整備事業

新規事業がスタート！

～赤石地区国際物流ターミナル整備事業～

徳島小松島港赤石地区は、県内唯一のコンテナターミナルを有し、海上コンテナ荷役の中心となっています。現在、定期コンテナ航路が韓国(釜山)間で週2便、神戸港間(国際フィーダー)で週1便就航しています。また近年、県内企業では、世界的な半導体需要や国際的な各種環境規制に伴う需要の高まりを踏まえ、化学工業品等の生産体制の増強を計画しており、原料、製品にかかるコンテナ輸送量の増加が見込まれています。加えて、バイオマス発電所の稼働開始による木材チップの輸入量も増加が見込まれております。

しかしながら、既存の岸壁及びふ頭用地では、国際フィーダー船※を、現在利用している船舶と同時着岸させるために必要な岸壁延長やふ頭用地面積を確保できていない状態となっています。また、徳島小松島港におけるクルーズ船の寄港が近年増加傾向にあることで、クルーズ船の寄港時にはコンテナ船・木材チップ船が係留できず沖で滞留するケースも生じています。

こうした社会情勢や課題を踏まえ、今後増大が見込まれる新たなコンテナ貨物需要や、2024年問題に起因するモーダルシフト需要に対応し、地域国際競争力の強化や、国際コンテナ戦略港湾である神戸港への更なる集貨を図るため、今後も徳島県と協力し整備を行ってまいります。

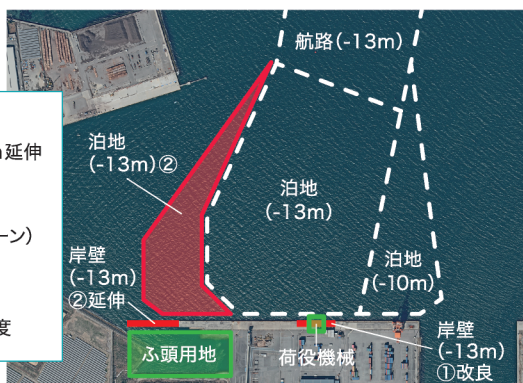
事業概要

整備施設

- ・岸壁(水深13m)②80m延伸
- ・岸壁(水深13m)①改良
- ・泊地(水深13m)②
- ・荷役機械(ガントリークレーン)
- ・ふ頭用地

事業期間

- ・令和6年度～令和12年度



整備効果

岸壁80m延伸により、

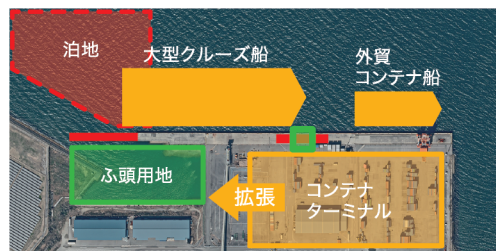
- ① 木材チップ船・国際フィーダー船※
外貿コンテナ船の3隻同時係留が実現
- ② トラックドライバー不足と二酸化炭素
の排出抑制に対応可能
- ③ 大型クルーズ船寄港時にコンテナ船の
同時係留が可能

ふ頭用地造成により、

コンテナターミナルが拡張され、物流
機能の向上が見込まれる



3隻同時係留が実現



大型クルーズ船とコンテナ船の同時係留が可能

※ 国際コンテナ戦略港湾と国内各港を結び、
外貿コンテナの2次輸送を担う内航コンテナ船

徳島小松島港における“国土強靱化対策”の推進

徳島小松島港では、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の一環として、港湾施設の地震・津波対策および老朽化対策を推進しています。

●徳島港区では防波堤の「粘り強い構造」への改良等を実施(沖洲(外)地区・津田地区)

防波堤は、入港した船舶が安定的に貨物を荷役するために、港外側からの波を遮蔽し港内を静穏に保つ重要な役割を担っています。しかしながら、沖洲(外)地区防波堤は建設後30年近く、津田地区防波堤は40年以上が経過し、防波堤の沈下や老朽化による機能低下が進み、前述の重要な役割を一部果たせない状況であるため対策が必要となっております。

また、南海トラフ地震津波発災後に船舶を利用した緊急物資輸送の受入れや海上物流機能の回復を早期に行えるよう、徳島港区では、耐震性能を強化した岸壁や防波堤延伸、背後臨港道路の整備が完了しています。そして、地震津波発災後も港内を静穏に保ち、岸壁で安定的に船舶の荷役を行えるよう、防波堤について、老朽化対策とあわせて「粘り強い構造」への改良に取り組んでいます。

対象施設と令和6年度の実施内容

沖洲(外)地区防波堤においては粘り強い化のための基礎工、上部工の拡幅を行います。津田地区防波堤においては、機能復旧のために消波ブロックの据付を行います。本格的な改良工事に向けた調査・施工検討を実施するとともに関係者・利用者調整を進めていく予定です。

消波工機能復旧状況(令和6年4月撮影)
津田地区防波堤



◆徳島港区



●小松島港区では泊地の埋没対策を実施(金磯地区)

老朽化(昭和30～40年代に整備)により利用が制限されていた岸壁のリニューアル工事が令和5年度までに完了し、年間を通して貨物船やクルーズ客船の利用が可能となりました。

対象施設と令和6年度の実施内容

令和6年度は、埋没傾向の著しい金磯地区岸壁(水深11m)の前面泊地において、所定水深を継続的に確保するための埋没対策を実施する予定です。



◆小松島港区



空港整備事業

滑走路端安全区域 (RESA) 整備による航空輸送の安全安心の確保

徳島飛行場では滑走路端安全区域 (RESA: Runway End Safety Area) の整備に取り組んでいます。これは、航空機が離着陸する際に滑走路を超えて走行し停止する「オーバーラン」、または航空機が着陸する際に滑走路手前に着地してしまう「アンダーシュート」を起こした場合の航空機の被害・損傷を軽減させるための区域のことで、平成25年度に改訂された「空港土木施設の設置基準」に基づくRESAの範囲を満たすために、海側に必要な区域を確保することとしています。



GeoEye-1 ©2016 DigitalGlobe, Inc. / 画像提供: 日本スペースイメーシング

令和6年度の実施内容

滑走路端安全区域 (RESA) の工事着工に向けた測量・調査・施工検討等を実施するとともに関係者・利用者調整を進めていく予定です。

滑走路端安全区域 (RESA) 整備予定箇所

滑走路端安全区域 (RESA) の整備により、航空機の離着陸時の安全を確保します！



海洋環境整備事業

海上を利用する船舶の安全安心の確保と海洋環境の保全

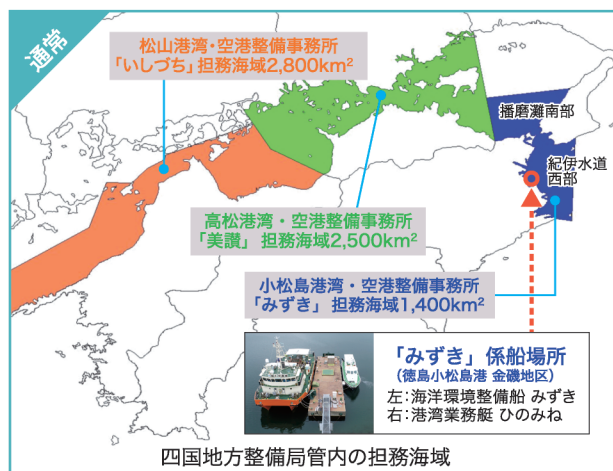
四国地方整備局では、瀬戸内海に3隻の海洋環境整備船 (みずき・美讃・いしづち) を配備しています。

当事務所に配備されている海洋環境整備船「みずき」は、播磨灘南部及び紀伊水道西部を担務海域として、日々海の漂流物を回収しています。また、船舶事故等によって海に油が流出した際には油の回収を行い、近年では非常時の活動として下記に記載の支援活動を行いました。

- 平成30年7月 西日本豪雨災害時の漂流物回収作業
- 令和3年10月 和歌山市へ緊急物資 (飲料水) 輸送
- 令和3年12月 東京湾での軽石の回収作業

さらに、海上交通の要衝である紀伊水道において災害が発生した場合に備え、小松島の「みずき」と和歌山の「海和歌丸」による合同訓練を平成29年度より毎年実施しています。

今後も、日々の漂流物回収を行いつつ、災害支援に積極的に対応することで、海上を利用する船舶に安全安心を提供するよう取り組んでいきます。



金磯地区岸壁(水深11m)のリニューアル工事が完了！

当事務所で実施した金磯地区岸壁(水深11m)のリニューアル工事について紹介します。本岸壁は昭和46年から48年に建設され、約50年が経過し老朽化が激しく、平成25年より岸壁の一部に利用が制限されている状況でした。そして、平成28年度より利用制限の解消を最優先に岸壁のリニューアル工事に着手し、ついに令和6年3月に整備が完了しました。

県内の物流拠点の一つの金磯地区では、従来からの原木荷役等に加えて近年ではバイオマス発電の燃料となるPKS(パーム椰子殻)の荷役、また、クルーズ船も寄港しております。本工事は、こうした港の機能を保持しながら進めました。そして、4月1日には新しくなった金磯岸壁にクルーズ船『シルバー・ムーン』が初寄港し、多くの方で賑わいました。

今後も金磯地区では、物流、賑わい創出の港湾機能の更なる向上が見込まれます。



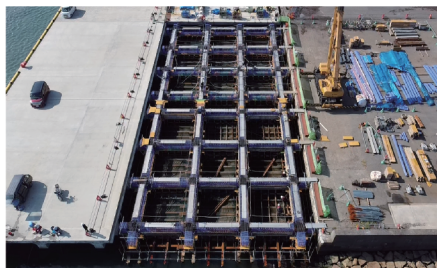
利用制限箇所
(平成25年8月撮影)



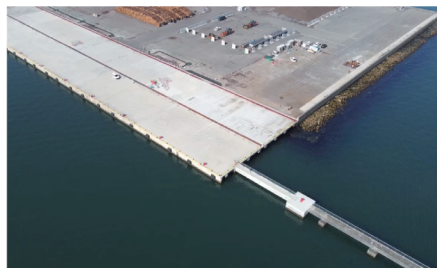
工事の様子
(令和2年3月撮影)



にっぽん丸寄港
(令和4年11月13日撮影)



工事の様子
(令和5年10月撮影)



整備完了
(令和6年3月撮影)



令和6年4月1日に初寄港した
「シルバー・ムーン」

クルーズ船『シルバー・ムーン』が初寄港！

4月1日、バハマ船籍『シルバー・ムーン』が徳島小松島港金磯地区に初めて寄港しました。全長は212.8mで、全客室パトラー付のスイート仕様の豪華客船です。乗客約400人は大塚国際美術館や祖谷のかずら橋、うだつの町並みなどを観光し、徳島の文化や自然、食を堪能されました。

徳島小松島港には毎年クルーズ船が寄港しています。コロナ禍以降、クルーズ船の寄港回数は年々増加しており、令和6年は飛鳥IIやダイヤモンド・プリンセス、にっぽん丸など18回の寄港を予定しております(令和6年4月23日時点)。

また、クルーズ船には右表のような3つのクラスがあります。ラグジュアリークラスは豪華で上質なサービスや美食が魅力です。プレミアムクラスは様々な施設が充実し、落ち着いて利用することのできるスマートな贅沢さが楽しめます。カジュアルクラスはエンターテインメント性が重視されており、充実した船内設備でファミリーや若年層にも人気です。

ぜひ、ゆっくりとした船旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。

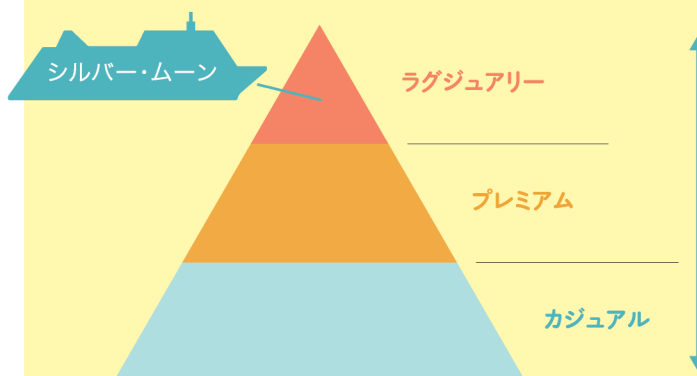
こまぼんの

なるほど！

みなと講座



クルーズ船のクラスとは？



クラス分けの基準

- 乗客1人あたりが占める容積の大きさ
- 乗客1人あたりの乗組員の人数



高級になるほど、船の大きさは小さくなる傾向があるよ！

徳島小松島港におけるクルーズ船寄港予定

徳島小松島港では、毎年クルーズ船が寄港しており、今年も下表の日程で入港する予定です。

また、クルーズ船寄港時には見学ブースもあります。間近で大きなクルーズ船を見ることができますので是非お越しください！

令和6年4月23日時点



飛鳥Ⅱ



にっぽん丸

寄港日	船名	寄港岸壁
6月12日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	金磯(水深11m)
6月26日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	金磯(水深11m)
7月10日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	赤石(水深13m)
7月24日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	金磯(水深11m)
8月7日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	金磯(水深11m)
8月12日	飛鳥Ⅱ	金磯(水深11m)
8月13日	ダイヤモンド・プリンセス	赤石(水深13m)
8月15日	にっぽん丸	沖洲(外)(水深7.5m)
8月21日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	金磯(水深11m)
9月4日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	赤石(水深13m)
9月25日	コーラル・ジオグラファー	沖洲(外)(水深7.5m)
10月5日	にっぽん丸	沖洲(外)(水深7.5m)

初寄港



出典：徳島県HP

小松島港まつり協賛行事 みずきの一般公開とみなと見学会を行います！

7月13日、14日に小松島港まつりが2日間開催されます！その協賛行事として当事務所では13日に、毎年大好評の海面清掃兼油回収船“みずき”の一般公開と港湾業務艇“ひのみね”の『みなと見学会』を開催します。

『みなと見学会』とは“ひのみね”に乗船して徳島小松島港の周辺を一周し、港の役割、重要性についての説明を聞きながら、身近に海の雰囲気を感じていただけます。また、様々な疑問に当事務所の職員がお答えします。

先着定員制ではありますが、どなたでもご参加いただけます。ぜひ普段見ることのできない海からの小松島の港をご覧ください！



“みずき”一般公開の様子



『みなと見学会』の様子



港湾業務艇“ひのみね”

出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座（みなと学習、環境学習、防災学習）を開講しています。楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



当事務所
TEL

出前講座、現場見学のお問い合わせは…

(0885)-32-3855

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。



事務所ホームページQRコード

発行／国土交通省 四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所 企画調整担当
〒773-0001 小松島市小松島町字外開1-11 小松島みなと合同庁舎2階 TEL: (0885)-32-3855

URL <http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
E-mail pa.skr-kmj-m-i88s3@mlit.go.jp



地球に優しい大豆インキを使用しています。

金磯地区岸壁(水深11m)のリニューアル工事が完了！

当事務所で実施した金磯地区岸壁(水深11m)のリニューアル工事について紹介します。本岸壁は昭和46年から48年に建設され、約50年が経過し老朽化が激しく、平成25年より岸壁の一部に利用が制限されている状況でした。そして、平成28年度より利用制限の解消を最優先に岸壁のリニューアル工事に着手し、ついに令和6年3月に整備が完了しました。

県内の物流拠点の一つの金磯地区では、従来からの原木荷役等に加えて近年ではバイオマス発電の燃料となるPKS(パーム椰子殻)の荷役、また、クルーズ船も寄港しております。本工事は、こうした港の機能を保持しながら進めました。そして、4月1日には新しくなった金磯岸壁にクルーズ船『シルバー・ムーン』が初寄港し、多くの方で賑わいました。

今後金磯地区では、物流、賑わい創出の港湾機能の更なる向上が見込まれます。



利用制限箇所
(平成25年8月撮影)



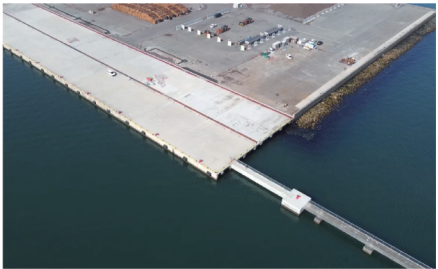
工事の様子
(令和2年3月撮影)



にっぽん丸寄港
(令和4年11月13日撮影)



工事の様子
(令和5年10月撮影)



整備完了
(令和6年3月撮影)



令和6年4月1日に初寄港した
「シルバー・ムーン」

クルーズ船『シルバー・ムーン』が初寄港！

4月1日、パナマ船籍『シルバー・ムーン』が徳島小松島港金磯地区に初めて寄港しました。全長は212.8mで、全客室バトラー付のスイート仕様の豪華客船です。乗客約400人は大塚国際美術館や祖谷のかずら橋、うだつの町並みなどを観光し、徳島の文化や自然、食を堪能されました。

徳島小松島港には毎年クルーズ船が寄港しています。コロナ禍以降、クルーズ船の寄港回数は年々増加しており、令和6年は飛鳥Ⅱやダイヤモンド・プリンセス、にっぽん丸など18回の寄港を予定しております(令和6年4月23日時点)。

また、クルーズ船には右表のような3つのクラスがあります。ラグジュアリークラスは豪華で上質なサービスや美食が魅力です。プレミアムクラスは様々な施設が充実し、落ち着いて利用することのできるスマートな贅沢さが楽しめます。カジュアルクラスはエンターテインメント性が重視されており、充実した船内設備でファミリーや若年層にも人気です。

ぜひ、ゆっくりとした船旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。



徳島小松島港におけるクルーズ船寄港予定

徳島小松島港では、毎年クルーズ船が寄港しており、今年も下表の日程で入港する予定です。また、クルーズ船寄港時には見学ブースもあります。間近で大きなクルーズ船を見ることができますので是非お越しください！



飛鳥Ⅱ



にっぽん丸

寄港日	船名	寄港岸壁
6月12日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	金磯(水深11m)
6月26日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	金磯(水深11m)
7月10日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	赤石(水深13m)
7月24日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	金磯(水深11m)
8月7日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	金磯(水深11m)
8月12日	飛鳥Ⅱ	金磯(水深11m)
8月13日	ダイヤモンド・プリンセス	赤石(水深13m)
8月15日	にっぽん丸	沖洲(外)(水深7.5m)
8月21日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	金磯(水深11m)
9月4日	チャイナ・マーチャンツ・エデン	赤石(水深13m)
9月25日	コーラル・ジオグラファー	沖洲(外)(水深7.5m)
10月5日	にっぽん丸	沖洲(外)(水深7.5m)

令和6年4月23日時点

出典：徳島県HP

小松島港まつり協賛行事 みずきの一般公開とみなと見学会を行います！

7月13日、14日に小松島港まつりが2日間開催されます！その協賛行事として当事務所では13日に、毎年大好評の海面清掃兼油回収船“みずき”の一般公開と港湾業務艇“ひのみね”の『みなと見学会』を開催します。

『みなと見学会』とは“ひのみね”に乗船して徳島小松島港の周辺を一周し、港の役割、重要性についての説明を聞きながら、身近に海の雰囲気を感じていただけます。また、様々な疑問に当事務所の職員がお答えします。

先着定員制ではありますが、どなたでもご参加いただけます。ぜひ普段見ることのできない海からの小松島の港をご覧ください！



“みずき”一般公開の様子



『みなと見学会』の様子



港湾業務艇“ひのみね”

出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みなと学習、環境学習、防災学習)を開催しています。楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。

発行／国土交通省 四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所 企画調整担当
〒773-0001 小松島市小松島町字外開1-11 小松島みなと合同庁舎2階 TEL: (0885) -32-3855

URL <http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
E-mail pa.skr-kmj-m-i88s3@mlit.go.jp

当事務所 出前講座、現場見学のお問い合わせは…
TEL (0885)-32-3855

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。

事務所ホームページQRコード

PRINTED WITH SOY INK
地球に優しい大豆インキを使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。

2024 Summer

vol.61

あやめなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

新時代を切り拓く
徳島小松島港

赤石地区 国際物流ターミナル整備事業 新規事業化
～更なる国際競争力強化を目指す 新たなステージへ～

TOPICS

＜特集＞

令和6年度
事業概要を
ご紹介します

令和6年4月1日付けで事務所長として着任しました高尾俊輝と申します。よろしくお願いいたします。

当事務所には縁があり、今回が4回目の勤務となります。

まずは、念願であった「赤石地区国際物流ターミナル整備事業」が令和6年度に事業化され、新たな事業がスタートします。今後増大が見込まれるコンテナ貨物需要や2024年問題に起因するモーダルシフト需要への対応を図り、更なる地域の国際競争力強化に向け、早期の完成を目指し整備を推進して参ります。また、事業化にあたり、これまでご支援・ご協力いただきました企業・関係者の皆様に改めて誌面をお借りしてお礼を申し上げます。

また、継続事業では港湾施設の国土強靱化対策として南海トラフ地震・津波対策の推進や、徳島飛行場での滑走路端安全区域 (RESA) の現地着手に向けた現地調査の他、海の環境保全を目的とした海洋環境整備事業を継続するとともに、クルーズ振興やみなとまちづくり等の賑わい創出に向けた取り組みについても積極的に支援して参りたいと考えております。

引き続き、地域の皆様の安全・安心の確保を目指し、地域に根ざした組織として皆様のご意見をしっかりと聞きながら期待に応えられるよう微力ではございますが、取り組んで参りますので、今後ともご指導とお力添えをよろしくお願いいたします。

小松島港湾・空港整備事務所長 高尾 俊輝

小松島港湾・空港整備事務所 令和6年度事業概要

港湾整備事業

新規事業がスタート！ ～赤石地区国際物流ターミナル整備事業～

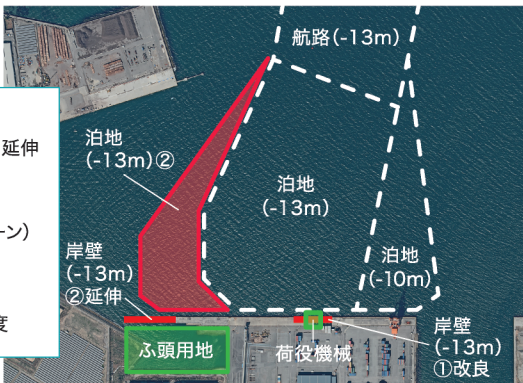
徳島小松島港赤石地区は、県内唯一のコンテナターミナルを有し、海上コンテナ荷役の中心となっています。現在、定期コンテナ航路が韓国(釜山)間で週2便、神戸港間(国際フィーダー)で週1便就航しています。また近年、県内企業では、世界的な半導体需要や国際的な各種環境規制に伴う需要の高まりを踏まえ、化学工業品等の生産体制の増強を計画しており、原料、製品にかかるコンテナ輸送量の増加が見込まれています。加えて、バイオマス発電所の稼働開始による木材チップの輸入量も増加が見込まれております。

しかしながら、既存の岸壁及びふ頭用地では、国際フィーダー船※を、現在利用している船舶と同時着岸させるために必要な岸壁延長やふ頭用地面積を確保できていない状態となっています。また、徳島小松島港におけるクルーズ船の寄港が近年増加傾向にあることで、クルーズ船の寄港時にはコンテナ船・木材チップ船が係留でぎす沖で滞留するケースも生じています。

こうした社会情勢や課題を踏まえ、今後増大が見込まれる新たなコンテナ貨物需要や、2024年問題に起因するモーダルシフト需要に対応し、地域国際競争力の強化や、国際コンテナ戦略港湾である神戸港への更なる集貨を図るため、今後も徳島県と協力し整備を行ってまいります。

事業概要

- 整備施設**
- ・岸壁(水深13m) ②80m延伸
 - ・岸壁(水深13m) ①改良
 - ・泊地(水深13m) ②
 - ・荷役機械(ガントリークレーン)
 - ・ふ頭用地
- 事業期間**
- ・令和6年度～令和12年度

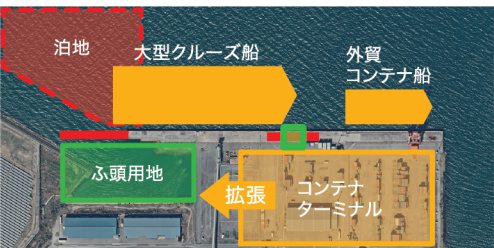
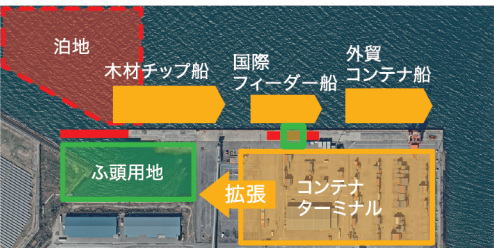


整備効果

岸壁80m延伸により、

- ① 木材チップ船・国際フィーダー船※
外貿コンテナ船の3隻同時係留が実現
- ② トラックドライバー不足と二酸化炭素
の排出抑制に対応可能
- ③ 大型クルーズ船寄港時にコンテナ船の
同時係留が可能

ふ頭用地造成により、
コンテナターミナルが拡張され、物流
機能の向上が見込まれる



※ 国際コンテナ戦略港湾と国内各港を結び、
外貿コンテナの2次輸送を担う内航コンテナ船

徳島小松島港における“国土強靱化対策”の推進

徳島小松島港では、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の一環として、港湾施設の地震・津波対策および老朽化対策を推進しています。

●徳島港区では防波堤の「粘り強い構造」への改良等を実施(沖洲(外)地区・津田地区)

防波堤は、入港した船舶が安定的に貨物を荷役するために、港外側からの波を遮蔽し港内を静穏に保つ重要な役割を担っております。しかしながら、沖洲(外)地区防波堤は建設後30年近く、津田地区防波堤は40年以上が経過し、防波堤の沈下や老朽化による機能低下が進み、前述の重要な役割を一部果たせない状況であるため対策が必要となっております。

また、南海トラフ地震津波発災後に船舶を利用した緊急物資輸送の受入れや海上物流機能の回復を早期に行えるよう、徳島港区では、耐震性能を強化した岸壁や防波堤延伸、背後臨港道路の整備が完了しています。そして、地震津波発災後も港内を静穏に保ち、岸壁で安定的に船舶の荷役を行えるよう、防波堤について、老朽化対策とあわせて「粘り強い構造」への改良に取り組んでいます。

対象施設と令和6年度の実施内容

沖洲(外)地区防波堤においては粘り強い化のための基礎工、上部工の拡幅を行います。津田地区防波堤においては、機能復旧のために消波ブロックの据付を行います。本格的な改良工事に向けた調査・施工検討を実施するとともに関係者・利用者調整を進めていく予定です。

消波工機能復旧状況(令和6年4月撮影)
津田地区防波堤



◆徳島港区



◆小松島港区



対象施設と令和6年度の実施内容

令和6年度は、埋没傾向の著しい金磯地区岸壁(水深11m)の前面泊地において、所定水深を継続的に確保するための埋没対策を実施する予定です。



空港整備事業

滑走路端安全区域 (RESA) 整備による航空輸送の安全安心の確保

徳島飛行場では滑走路端安全区域 (RESA: Runway End Safety Area) の整備に取り組んでいます。これは、航空機が離着陸する際に滑走路を超えて走行し停止する「オーバーラン」、または航空機が着陸する際に滑走路手前に着地してしまう「アンダーシュート」を起こした場合の航空機の被害・損傷を軽減させるための区域のことで、平成25年度に改訂された「空港土木施設の設定基準」に基づくRESAの範囲を満たすために、海側に必要な区域を確保することとしています。



令和6年度の実施内容

滑走路端安全区域 (RESA) の工事着工に向けた測量・調査・施工検討等を実施するとともに関係者・利用者調整を進めていく予定です。

滑走路端安全区域 (RESA) 整備予定箇所
滑走路端安全区域 (RESA) の整備により、航空機の離着陸時の安全を確保します！



海洋環境整備事業

海上を利用する船舶の安全安心の確保と海洋環境の保全

四国地方整備局では、瀬戸内海に3隻の海洋環境整備船(みずき・美讃・いしづち)を配備しています。当事務所に配備されている海洋環境整備船「みずき」は、播磨灘南部及び紀伊水道西部を担務海域として、日々海の漂流物を回収しています。また、船舶事故等によって海に油が流出した際には油の回収を行い、近年では非常時の活動として下記に記載の支援活動を行いました。

- 平成30年7月 西日本豪雨災害時の漂流物回収作業
- 令和3年10月 和歌山市へ緊急物資(飲料水)輸送
- 令和3年12月 東京湾での軽石の回収作業

さらに、海上交通の要衝である紀伊水道において災害が発生した場合に備え、小松島の「みずき」と和歌山の「海和歌丸」による合同訓練を平成29年度より毎年実施しています。

今後も、日々の漂流物回収を行いつつ、災害支援に積極的に対応することで、海上を利用する船舶に安全安心を提供するよう取り組んでいきます。

